

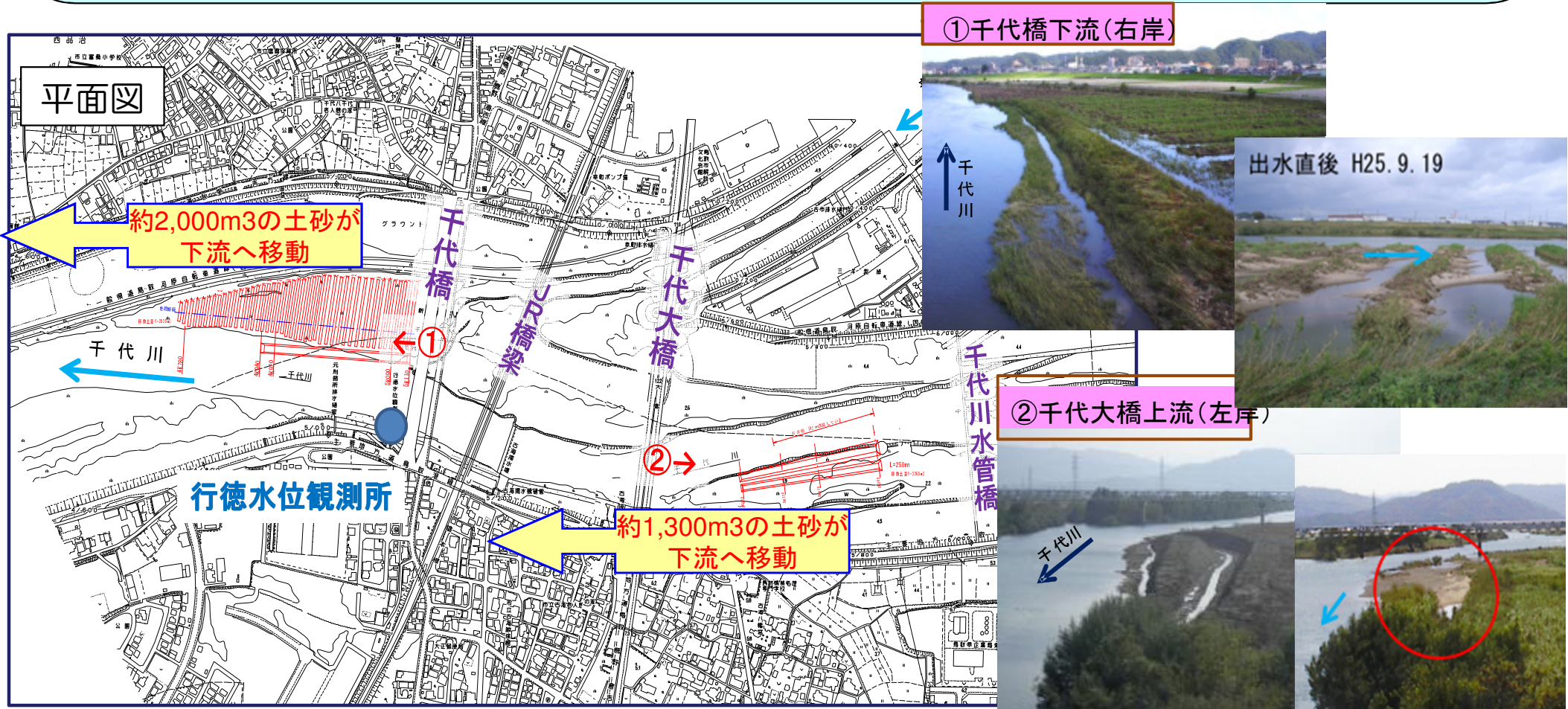
千代川の維持管理の取り組み状況 — 自然の営力を活かした土砂管理の試行 —

○先導的取り組み概要(1)

河川の中州(寄洲)を掘削して、小堤の盛土をする。小堤の高さは年1回は浸かる高さ(水防団待機水位以下で設定)としている。中小洪水時に小堤と河床底面の土砂が流され、河床が低くなる。置き土は流心方向(2箇所)と流心直角方向の2ケース実施しモニタリングを行った。

○効果

平成25年9月4日の出水(H=4.86m Q=2,173m³/s(1/10流量相当) V=2.03m/sにより千代大橋上流の流心方向、及び千代橋下流の流心直角方向の置き土約3,300m³の洗掘流下が確認された。



千代川の維持管理の取り組み状況 — 自然の営力を活かした土砂管理の試行 —

○先導的取り組み概要(2)

河川の高水敷盤下げする工事で掘削により砂層を確認。総合土砂管理の観点から砂層(約930 m³)を中小洪水により流下することを期待して低水路内に置き土した。

その後の洪水等により、約930m³の置き土については流失したことを確認。

※砂層は試験を実施していないが、殆どが細流分の少ない砂と確認

